［連載］第41回　清々しき人々　月尾 嘉男（東京大学名誉教授・工学博士）

時代の先頭を疾走した早熟の天才　寺山 修司

Illustration：M.A

寺山修司（1935-83）

早熟の天才

社会には早熟の天才が時々出現します。音楽の分野ではW・A・モーツアルトが有名で、五歳で作曲した楽譜が現存し、一二歳でバチカンの教会で門外不出の秘曲の演奏を鑑賞した直後にすべての声部を楽譜に記載しています。フランスの詩人A・ランボーは一五歳で処女詩集『酔いどれ船』、一九歳で詩集『地獄の季節』を発表していますし、フランスの作家R・ラディゲは二〇歳で処女小説『肉体の悪魔』を発表し、その年齢で夭折しています。

当然、日本にも存在します。晩年は奄美大島で生活した画家の田中一村には八歳のときの南画「菊図」が存在しますし、三〇歳で夭折した詩人の中原中也は実弟が病死したとき最初の詩作を発表しています。八歳でした。五千円札の肖像になっている作家の樋口一葉の最初の小説『闇桜』は二〇歳の作品であり、二四歳で夭折しています。今回は戦後の日本で和歌、小説、戯曲など多様な分野で活躍した早熟の天才・寺山修司を紹介します。

演劇の隆盛時代

筆者が地方都市から上京してきた一九六〇年代は東京オリンピック大会のように既存の体制を宣伝する活動の一方、世界規模でアンダーグラウンド文化が全盛の時代でした。一九五五年に開戦した大義の明確ではないベトナム戦争への抗議、急速に勢力を拡大してきた資本主義経済体制への反抗など、既存の秩序への疑問からカウンターカルチャー、ヌーヴェルヴァーグ、前衛芸術など名前は様々ですが、社会へ反抗する芸術が登場してきました。

それらの芸術のなかでも、日本で先鋭な活動をしていたのが演劇で、「状況劇場」を主宰していた唐十郎と「天井桟敷」を主宰していた寺山修司が両雄でした。もう一派、全国各地を移動しながら演劇活動を展開していた「黒テント」に対抗し、一九六七年に東京新宿の花園神社境内に「紅テント」を敷設した状況劇場は『腰巻お仙』で若者を熱狂させ、一方、天井桟敷は渋谷区並木橋に専用劇場「天井桟敷館」を建設して活動していました。

高校時代から俳句に関心

この天井桟敷を主宰した寺山修司は警官で青森県内を転勤していた父親寺山八郎の長男として一九三五年に青森県弘前市で誕生しました。父親が出征、一九四五年に戦地で病死したため、戦後は母親と青森県内を転々と移動しながら一九五一年に県立青森高校に入学します。そこでは「校内俳句大会」を主催、さらに全国学生俳句会議を結成して俳句雑誌まで創刊しています。すでに高校時代から文学と組織運営に才能を発揮していたのです。

一九五四年に上京して早稲田大学教育学部国文学科に入学して短歌の制作を開始、『短歌研究』という雑誌に「父還せ」という作品を応募したところ特選となり、話題となるとともに既存の歌壇からは反撃もされます。しかし「自分に誠実であるためには、どのような手段でもいいたいことをいうべきだ」と主張し、短歌以外にも評論、演劇、映像などで次々と才能を発揮、「職業は寺山修司です」という有名な言葉で自分の活動を表現しています。

しかし、大学一年のときにネフローゼと診断されて新宿の病院で四年にわたり入院することになり、生活保護を受給するほど困窮します。それでも創作意欲は活発で、戯曲や歌集を次々と発表しますが、上演された戯曲に才能を見出した詩人の谷川俊太郎の紹介でラジオドラマの脚本を執筆します。しかし一九六〇年にラジオ九州で放送された『大人狩り』が「暴力革命を扇動する」と問題にされ、警察などに背後関係を調査される事件に遭遇します。

そこで「ラジオのように倫理規定のある媒体以外で表現する」と決心し、演劇に進出しますが、ここでも瞬時に才能を発揮し、一九六〇年に浅利慶太が旗揚げした「劇団四季」で戯曲『血は立ったまま眠っている』が上演され、さらに篠田正浩の映画のシナリオも執筆する活躍をします。この時期に生活環境も変化し、一二年前から別居していた母親のハツと同居しますが、三年後に松竹の女優九條映子と結婚し、母親とは再度別居することになります。

デモ活動より芸術で社会改革

この時期の日本は騒然としていました。一九五一年に署名されたサンフランシスコ講和条約により日本は主権を回復すると同時に日米安全保障条約によりアメリカの軍隊が日本に駐留することになります。さらに一九六〇年に日米安全保障条約が改定され、日本国内は騒然とし、六月に来日したJ・ハガティ大統領報道官が都心に到達できない騒動が発生、五日後には国会議事堂前に三〇万人が集結する安保反対のデモ活動が展開しました（図1）。

演劇関係だけではなく、多数の芸術関係の人々も安保闘争に参加するのが当然というのが当

図1　安保反対のデモ活動（1960.6.18）

図2　大山 デブ子（1915-81）

ミライを創る若ものを支援

社会を変えるアイデアの実現めざして
情報社会・環境問題の研究開発を助成します

テーマ
・環境問題を解決するために自分がしたいこと
・情報社会を発展させるために自分がしたいこと
上記いずれかのテーマで2ページ以内にまとめ、PDFファイルにてご応募下さい　※フォーマットは自由

研究助成
一次選考通過者：審査会場までの交通費／宿泊費を支給（財団規定による）
二次選考通過者 30万円（選考通過者一人につき）

応募資格　応募時点で12～18歳であること。学歴不問。　募集期間　2020年4月1日～5月31日（23時59分まで）
スケジュール　6月30日　一次審査結果発表（通過者のみにメールにて通知）、8月下旬二次審査（東京にてプレゼン）、
9月下旬　二次審査結果発表（通過者のみにメールにて通知）、2021年3月中旬　発表会（予定）　※二次審査に進まれる場合、保護者の同意が必要となります。
応募方法　HPよりアクセスの上、応募フォームにてご応募下さい。（※インターネットのみ）→http://prometheus-foundation.com
お問合せ　prometheusfoundation2020@gmail.com

主催　プロメテウス財団
理事長／住谷　栄之資
理事／月尾嘉男（東京大学名誉教授）、舩橋晴雄（シリウス・インスティチュート株式会社　代表取締役）、大瀧守彦（日本特殊陶業株式会社　社外取締役）

時の風潮であり、当然、寺山も関心がなかったわけではありませんが、それ以上に演劇が社会を変革する威力に自信をもっていました。当時「デモ活動くらいで世間が変化するわけはない。そこでデモ活動に参加しようとする団員を暴力で阻止し、自分の芝居のほうが社会を変革すると説得して芝居をやらせた」と友人に述懐しています。

実際、一九五九年にラジオ九州で放送された最初の作品『中村一郎』は民放祭大賞、六四年に日本放送協会で放送された「山姥」でイタリア賞グランプリ、中部日本放送で放送された「大礼服」で芸術祭奨励賞を受賞し、戯曲作家としての地位を確実にしていきます。同時に、学研の雑誌『高三コース』の詩作の選者として若者に影響するようになり、六三年刊行の『現代の青春論：家出のすすめ』により「青年のカリスマ」としての役割も確保していきます。

天井桟敷を創設

そして演劇が社会を変革することを証明するため、一九六七年にイラストレーターの横尾忠則、演劇作家の東由多加、夫人で女優の九條映子らとともに劇団「天井桟敷」を結成します。これは「演劇が社会全体を動揺させる表現媒体であるためには、ショック療法が必要であり、そのためにスキャンダラスな見世物小屋風の演劇を実演するための『天井桟敷』を結成した。それによって新劇のスノビズムを破壊していく」と意図を説明しています。

その言葉のように、一九六七年四月に当時は実験芸術の殿堂であった草月アートセンターで「青森県のせむし男」を上演。演出は東由多加、美術は横尾忠則、主演は丸山明宏（現・美輪明宏）でした。さらに六月には新宿末廣亭で「大山デブ子の犯罪」を上演します。大山デブ子は実在の松竹の女優（図2）でしたが、本人の出演はなりませんでした。九月にはアートシアター新宿文化で「毛皮のマリー」が上演され、主役は丸山明宏、コシノジュンコが衣装を担当しています。

一九六九年に東京の渋谷に日本で最初のアンダーグラウンド演劇専用の劇場「天井桟敷館」が実現しますが、この時期から寺山の活動は海外と市街に展開していきます。六九年にフランクフルトの「国際実験映画祭」に招待され「毛皮のマリー」「犬神」を上演、七一年にはナンシー演劇祭で「人力飛行機ソロモン」「邪宗門」を上演、ベオグラード国際演劇祭では上演した「邪宗門」がグランプリを受賞、国際作家として地位を確保します。

もう一種は劇場から市街への発展です。全国共闘会議が学園内部から市街に闘争を展開していったことに影響されたとされていますが、最初は一九七〇年に東京の高田馬場から新宿にかけての一帯で上演された「人力飛行機ソロモン」でした。観客は代金を支払って一枚の地図を入手し、それを参照して地域を彷徨していくと、様々な場所で実演されている偽物の喧嘩や寸劇を見物し、最後は建物の屋上でのフィナーレを鑑賞するという仕組でした。

しかし、一九七五年の第二作目で問題が発生しました。東京の杉並一帯を舞台にした「ノック」という演劇で、観客が路地や銭湯を徘徊して、そこで発生する寸劇を見物する仕掛ですが、住民が警察に抗議し中止となってしまいました。筆者は公衆電話ボックスから電話回線で小型コンピュータをアメリカの大型コンピュータに接続して計算をするという役割で出演するため待機していたのですが、中止の連絡により俳優にはなれませんでした。

絶頂での夭逝

前述のように、寺山は「青年のカリスマ」であり、天井桟敷館の周辺には全国から家出してきた少年少女が徘徊していたという伝説がありますが、それを加速したのが一九六七年に出版した『書を捨てよ、町へ出よう』です（図3）。これは評論の集成ですが、七一年に同名の映画を製作し、サンレモ映画祭でグランプリを受賞しています。自分の芝居はデモ活動以上に社会を変革するという言葉を実践してきたということになります。

このように寺山の活動は国内よりも国外で評価されてきましたが、一九七四年に製作した映画「田園に死す」では、文化庁芸術祭奨励新人賞と芸術選奨新人賞を受賞し、日本でも評価されはじめました。しかし、八〇年に渋谷区内でアパートの敷地に侵入したとして逮捕され、略式起訴により罰金八千円を支払って釈放されましたが、これによって寺山のすべての仕事は無期延期となり、その前後から体調も悪化してきました。

一九七九年に肝硬変で入院、一旦は退院しますが、八三年に再発し、同年五月に敗血症を併発して四七歳で死去しました。葬儀は寺山が戯曲の執筆に進出する契機をもたらした谷川俊太郎が委員長となり、出棺のときには、元妻の九條映子と後半の人生を支援してきた田中未知の二人の女性が両側に寄り添うという寺山の人生を象徴する光景でした。田中はカルメン・マキの歌唱で流行した「時には母のない子のように」を作曲した女性です。

寺山が活躍した時期は日本が敗戦から反転して高度経済成長を実現して世界の大国へと成長する時期ですが、その経済偏重の発展の裏側で存在が希薄になりつつあった日本の各地の底流にある文化を見世物小屋風に転換して世界に発信したという意味で、偉大な天才でした。テレビジョン放送からインターネットの画像配信へと表現媒体の中心が移行している現在は、世界を興奮させた寺山の活動を見直すべき時期です（図4）。

つきお よしお
1942年名古屋市生まれ。1965年東京大学工学部卒業。工学博士。名古屋大学教授、東京大学教授などを経て東京大学名誉教授。2002、03年総務省総務審議官。これまでコンピュータ・グラフィックス、人工知能、仮想現実、メディア政策などを研究。全国各地でカヌーとクロスカントリースキーをしながら、知床半島塾、半蹄山麓塾、釧路湿原塾、白馬仰山塾、宮川清流塾、瀬戸内海塾などを主宰し、地域の有志とともに環境保護や地域計画に取り組む。主要著書に『日本 百年の転換戦略』（講談社）、『縮小文明の展望』（東京大学出版会）、『地球共生』（講談社）、『地球の救い方』、『水の話』（遊行社）、『100年先を読む』（モラロジー研究所）、『先住民族の叡智』（遊行社）、『誰も言わなかった！本当は恐いビッグデータとサイバー戦争のカラクリ』（アスコム）、『日本が世界地図から消滅しないための戦略』（致知出版社）、『幸福実感社会への転進』（モラロジー研究所）、『転換日本 地域創成の展望』（東京大学出版会）など。最新刊は『清々しき人々』（遊行社）。

図3 書を捨てよ町へ出よう

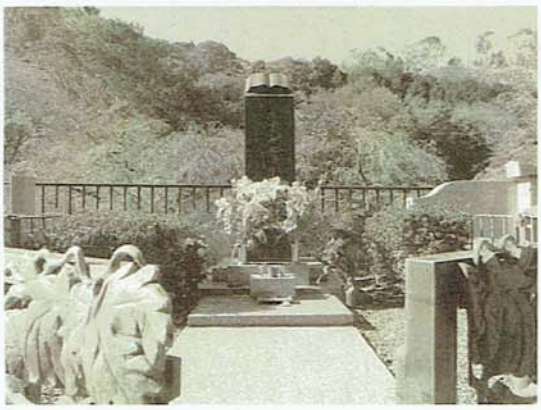
図4 寺山修司の墓（高尾霊園）

樹木を観察しよう！
樹木博士入門
小幡和男・岩瀬徹・川名興・飯島和子・宮本卓也 著
B5 256p. 本体2,900円 ISBN978-4-88137-198-5
●樹木は面白いけど観察ポイントがつかみにくい?…本書は読者の目線で観察します。
●事典と図鑑、ふたつの機能が融合して初心者にもわかりやすい指南書を実現しました。
●1章は写真を多用したわかりやすい用語事典。
●2章は「似たもの同士」などのグループ分けで実践的に使える樹木図鑑です。
昆虫、新・雑草、石ころ、カメムシに続くシリーズ5冊目
全国農村教育協会 〒110-0016 東京都台東区台東1-26-6 植調会館 TEL.03-3839-9160 FAX.03-3833-1665 http://www.zennokyo.co.jp

朝倉書店
◎なぜ外来アリは有害なのか。
外来アリのはなし
橋本佳明 編
海外から日本に侵入し、さまざまな影響や被害をもたらす、「外来アリ」についてまとめて学べる入門書。
A5判 200頁
定価(本体3,400円＋税)
ISBN978-4-254-17172-3
◎カイコとシルクのすべてがわかる！
日本蚕糸学会 編
【6月新刊】
カイコ、養蚕、そして絹について，起源から最新の話題までを95のトピックスで紹介する蚕糸科学の入門書。
A5判 224頁
定価(本体3,400円＋税)
ISBN978-4-254-42043-2
カイコの科学
〒162-8707 新宿区新小川町6-29
TEL.03-3260-7631 FAX.03-3260-0180
http://www.asakura.co.jp/

コレクション日本歌人選
寺山修司
昭和時代の前衛歌人・寺山修司の歌三十九首を掲載。歌の背景まで掘り下げ、寺山の波乱に富んだ人生に迫る。各歌には現代語訳、掘り仮名、丁寧な解説付き。
「コレクション日本歌人選」は、大伴旅人から在原業平、芭蕉、森鷗外、石川啄木、佐佐木信綱、春日井建まで、日本の代表的な歌人の秀歌を厳選した全80冊のアンソロジーシリーズです。
※ラインナップは弊社ウェブサイト（https://kasamashoin.jp）をご覧ください。
寺山修司
藤原龍一 著
四六判 並製 1200円＋税
ISBN 978-4-305-70640-9
笠間書院
〒101-0064 千代田区神田猿楽町2-2-3
電話 03(3295)1331 FAX 03(3294)0996
https://kasamashoin.jp